CASBEE熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要

建物名称	(仮称) 健軍2丁目マンション	階数	地上7階建
建設地	熊本県熊本市東区健軍2丁目172番、	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域、第2種中	平均居住人員	122 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年4月　予定	評価の実施日	2013年5月20日
敷地面積	1,375 ㎡	作成者	安堂文人
建築面積	580 ㎡	確認日	2013年5月21日
延床面積	2,787 ㎡	確認者	安堂文人

■ 外観

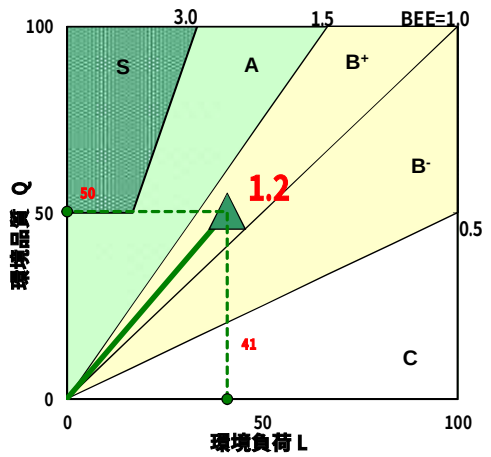
外観パース等

外観図の貼り付けは、
[外観図] シートへ貼り付けしてください。

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

★★★☆☆



BEE = 1.2

■BEE(環境効率) = Q(環境品質) / L(環境負荷)

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値 BEE値	判定値 Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	―
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	―
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	―
C	★	劣る	0.5未満	―

■ ライフサイクルCO_2排出性能 (ランク表示)

☆☆☆☆☆

排出率
77%

■ライフサイクルCO_2排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

評価点
82

	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	89.2
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	71.2
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	82.5
【重点事項4】 循環型社会の実現	76.5

■熊本県重点評価基準

判定値 (評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年版 I使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要

建物名称	(仮称) 健軍2丁目マンション	階数	地上7階建
建設地	熊本県熊本市東区健軍2丁目172番	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域、第2種中	平均居住人員	122 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年4月　予定	評価の実施日	2013年5月20日
敷地面積	1,375 ㎡	作成者	安堂文人
建築面積	580 ㎡	確認日	2013年5月21日
延床面積	2,787 ㎡	確認者	安堂文人

1-2 外観

外観パース等

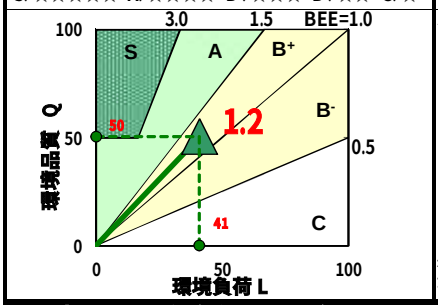
外観図の貼り付けは、

[外観図] シートへ貼り付けしてください。

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

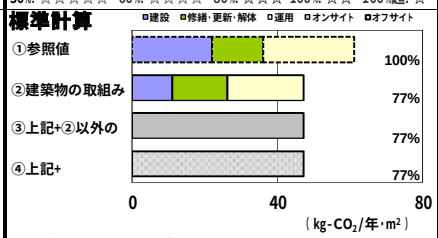
BEE =1.2

S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



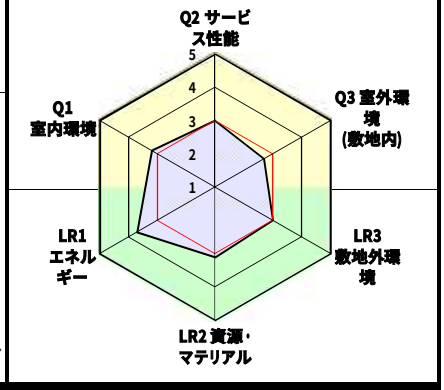
2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

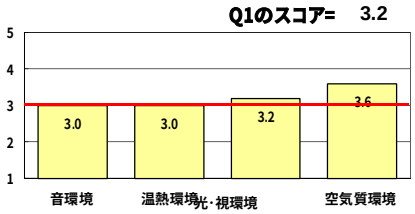
2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)



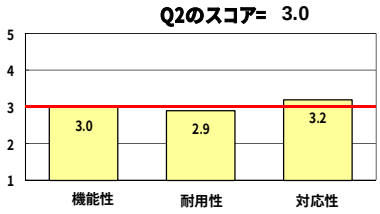
2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質　　Q のスコア= 3.0

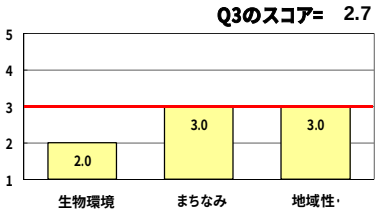
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.2



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.0

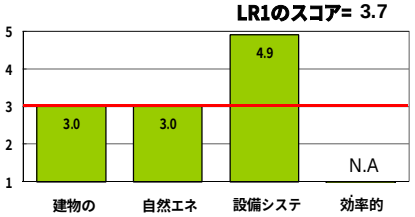


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 2.7

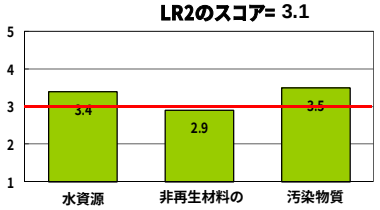


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.3

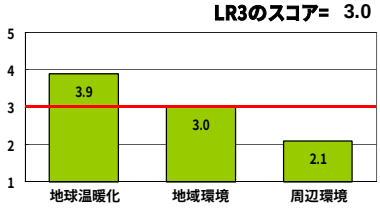
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 3.7



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.1



LR3 敷地外環境　LR3のスコア= 3.0



3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価

評価点 = 82

重点事項1：温室効果ガス排出量削減の推進

評価点 = 89

重点事項2：安全安心で暮らしやすい社会の実現

評価点 = 71

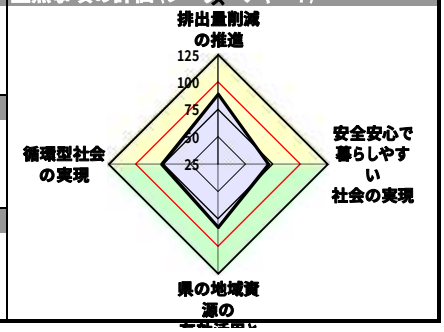
重点事項3：県の地域資源の有効活用と保全

評価点 = 83

重点事項4：循環型社会の実現

評価点 =77

重点事項の評価 (レーダーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Building Environmental Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO_2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
■LCCO2の算定条件等については、「LCCO2算定条件シート」を参照されたい

CASBEE-新築（簡易版）2010年版

（仮称）健軍2丁目マンション

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年版

■評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート　実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						**3.0**
Q1 室内環境			0.40			**3.2**
1 音環境		3.0	0.15	3.0	1.00	3.0
1.1 騒音		3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	0.50	
2 設備騒音対策		-	-	3.0	0.50	
1.2 遮音		3.0	0.50	3.0	0.50	
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		3.0	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能（軽量衝撃源）		3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能（重量衝撃源）		3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		3.0	-	3.0	-	
2 温熱環境		3.0	0.35	3.0	1.00	3.0
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温		3.0	0.63	3.0	0.63	
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能		3.0	0.38	3.0	0.38	
4 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境		2.6	0.25	3.3	1.00	3.2
3.1 昼光利用		1.8	0.30	4.0	0.30	
1 昼光率		1.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	3.0	0.30	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御		3.0	1.00	3.0	1.00	
3 映り込み対策		-		-		
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境		3.6	0.25	3.6	1.00	3.6
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	建築材料をほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用している。	4.0	1.00	4.0	1.00	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
4.2 換気		3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		3.0	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4 給気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO_2の監視		3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	-	-	-	
Q2 サービス性能		–	0.30	-	-	**3.0**
1 機能性		3.0	0.40	3.0	1.00	3.0
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	3.0	0.40	
1 広さ感・景観		3.0	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	
3 内装計画		3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		2.9	0.31	-	-	2.9
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	品確法の劣化等級2相当としている。	4.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	

2.3 適切な更新		-	-	-	-	
2.4 信頼性		2.2	0.19	-	-	
1 空調・換気設備		1.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3 電気設備		1.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性		3.0	0.29	3.3	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり		-	-	3.6	0.50	
1 階高のゆとり		3.0	-	4.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ		3.0	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		3.0	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4 通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5 設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境（敷地内）		–	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性		–	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー		–	0.40	-	-	3.7
1 建物の熱負荷抑制		3.0	0.40	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用		3.0	0.20	-	-	3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化	個別熱源で電気CO2冷媒給湯器（深夜電力利用貯湯式）を採用。	4.9	0.40	-	-	4.9
集合住宅以外の評価（ERRによる評価）	#VALUE!	5.0		-		
集合住宅の評価		4.9		-		
4 効率的運用		-	-	-	-	-
4.1 モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル		–	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護		3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水	節水型便器を採用している。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		2.9	0.63	-	-	2.9
2.1 材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	ー	3.0	0.20	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	床下地：パーティクルボード	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.5	0.22	-	-	3.5
3.1 有害物質を含まない材料の使用	接着剤等有害物質を含まない材料を使用している。	4.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		3.3	0.68	-	-	
1 消火剤	不活性ガス消火材を使用している。	4.0	0.33	-	-	
2 発泡剤（断熱材等）		3.0	0.33	-	-	
3 冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境		–	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮	建設・運用でCO2排出量を抑えている。	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	自転車置場・駐車場を確保し、動線が交差しないよう配慮。	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		2.1	0.33	-	-	2.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1 騒音		3.0	0.33	-	-	
2 振動		3.0	0.33	-	-	
3 悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制		1.6	0.40	-	-	
1 風害の抑制		1.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		3.0	-	-		
3 日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		1.6	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		1.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

省エネルギー性能を配慮し、環境にやさしい建物を目標に計画しました。

Q1 室内環境

建築材料はほぼ全面的にＦ☆☆☆☆を採用している。

Q2 サービス性能

躯体材料は品確法の劣化等級2相当としている。

Q3 室外環境（敷地内）

特になし。

LR1 エネルギー

個別熱源で電気ＣＯ２冷媒給湯器（深夜電力利用貯湯式）を採用している。

LR2 資源・マテリアル

節水型便器を採用している。
接着材等有害物質を含まない材料を使用している。

LR3 敷地外環境

建設・運用でＣＯ２排出量を抑えてる。

その他

特になし。

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称	（仮称）健軍2丁目マンション

■評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)　　■使用評価マニュアル：CASBEE熊本（新築）2011年版

★熊本県重点評価結果					総合評価点	81.7
重点事項				評価点	重点事項重み係数	評価配点
重点項目（配慮項目）		スコア	重み係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				89.2	0.40	35.68
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.15			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.00			
Q1-3.2.2	昼光制御	3.0	0.00			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.9	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				71.2	0.20	14.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				82.5	0.20	16.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				76.5	0.20	15.30
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点　＝　（各重点事項の評価点×各重点事項の重み係数）の総和

※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項（①～④の項目）

評価点　＝　（各重点項目のスコア×各重点項目の重み係数）の総和×(5/4)×20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※（5/4）×20：スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数